

《今朝の聖書から》今朝の聖書箇所は、人の癒しが奇跡的な方法で行なわれた箇所です。先に5章の前の部分を開いた時のことを覚えているでしょうか。夜通し漁をして何もとれなかった漁師達に、「もう一度網を入れよ」と言われ、その通りにしたら大漁だったという奇跡の物語でした。私たちでしたら、“先生、それでは今夜はどこに網を入れたら大漁になるのですか”と聞くかもしれません。漁師達はとれた魚に執着せず、彼らは“主に従う弟子”となったのです。ここに奇跡があったのです。私たちも主を“救い主”と告白した奇跡を体験しているのです。今朝の箇所は、その記録の次になります。らい病人を癒された出来事の記録です。らい病ですが、他の難病と同じくこの時代には、罪の結果病気になったのだ、と理解されていたことに気がつけて読まなければなりません。らい病人は、人々に“我々は汚れている者だから近づいてはなりません”と自己申告しなければなりませんでしたし、祭司・律法学者と呼ばれるような人々は特に、らい病人と関わることに警戒心を持っていました。13節で“イエスは手を伸ばして彼にさわり、「そうしてあげよう、きよくなれ」と言われた。すると、らい病がただちに去ってしまった。”とありますが、律法に厳しい人達はこのようなことはしませんでした。14節に“口封じ”の命令がありますが何故でしょう。奇跡が間違っ理解されることを警戒なさったのかもしれませんが。病気を治す力、大漁をもたらす力、奇跡はそのようなものではなく、“救い”のため奇跡があるのだということを理解しなければならぬのです。ただ、社会生活の習慣上、人格ある一人の人として祭司達に証明しなさいと、汚れからの解放を保證されたのです。もう一つの癒しの物語が18節以降に記録されています。我々が思うのと同じように、この人も家族も癒されたいと願いました。中風をわずらっている人への“思い”にイエス様は奇跡的な癒しを与えることを持って、神の国を示されたのです。24節を見ましょう。“命じる、起きよ”とあります。神の“起きよ、清くなれ”という声に別人のように、充実した生活を送ることが出来るようになった経験を、忘れてはいないでしょうか。

週報

2007年 2月 11日



主の業に励もう コリント15:58

日本フリースタジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル商会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸